



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

芦名, 定道

---

CITATION:

芦名, 定道. あとがき. ティリッヒ研究 2003, 6: [1]

ISSUE DATE:

2003-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/57611>

RIGHT:

## あ と が き

『ティリッヒ研究』第6号をお届けいたします。今回も、この研究雑誌の出版のために多額の寄付をいただいた方、また雑誌の実務作業を担当いただいた方など、多くの方々の支えによって、『ティリッヒ研究』の刊行ができたことを会の代表として心から感謝申し上げます。2003年度も研究会の活動を継続して進めてゆきたいと考えておりますので、いっそうのご支援をお願いいたします。

今回は、論文三編の他に、書評論文一編を収録いたしましたが、この内の書評論文は、現在、ティリッヒ研究会で輪読している論文集 (*Religion in the New Millennium: Theology in the Spirit of Paul Tillich*) に収められた論文について書評したものであり、会の活動の一端をお伝えできればと思います。

本研究会も少しずつ新しいメンバーを加えつつ活動を進めてきていますが、ここで、『ティリッヒ研究』の編集方針について、確認しておきたいと思います。

1. この研究雑誌に掲載される論文は、定例の研究会で研究発表を行い、その際の討論をもとに書き直しを行い、さらに必要に応じた編集者との質疑応答を経たものである。
2. 研究雑誌には、論文、研究ノート、書評などが収録されるが、大学院修士課程以前の方の研究は、原則として、研究ノートとして扱われる。
3. この研究雑誌は、ホームページ上の電子ジャーナルを基本とし、印刷雑誌の発行は最低限の必要部数にとどめる。なお、印刷雑誌は、希望者に対して、一部2000円でおわけするものとする(学生は半額)。
4. 雑誌の発行は、一年に一回ないし二回行われる。

ティリッヒの研究の最近の傾向の一つとして、アジアにおける宗教的伝統との比較研究、あるいは宗教的多元性との関わりにおける研究が挙げられる。最近刊行されたオウの研究書は、ティリッヒを儒教(朱子)と比較したものであり、アジアにおけるティリッヒ研究の一つの可能性を示したものと言えよう。

Insik Choi, *Die taologische Frage nach Gott, Paul Tillichs philosophischer*

*Gottesbegriff des 》 Seins-Selbst 《 und sprachliche Verantwortung des*

*Glaubens in Begegnung mit dem Taogedanken Laotzus*, Peter Lang 1991

Pan-Chiu Lai, *Towards a Trinitarian Theology of Religions: a Study of Paul Tillich's Thought*, Kok Pharos Publishing House 1994

Au Kin Ming, *Paul Tillich and Chu Hsi, A Comparison of Their Views of Human Condition*, Peter Lang 2002

2003年度日本宗教学会の学術大会が、9月3日～5日の日程で天理大学において開催される。本研究会のメンバーには宗教学会に所属の者がかなり含まれているが、今回の学術大会での研究発表の日時を調節することにより、定例のティリッヒ研究会を宗教学会の場を借りて行い、合わせて懇親会を実施したいと考えている。

以前の号の「あとがき」でお伝えしたティリッヒ『平和の神学』の翻訳の件であるが、現在、出版社の事情で作業が予定よりも遅れている。もうしばらくお待ちいただきたい。

研究会代表  
芦名 定道